

広報 つきがた

第 2 号

昭和44年 12月

発行

月 湯 村 役 場

人口動態	10月31日 現在	9・10月中の異動
世帯数	786	出生 6 死亡 5
(男 1,954 女 2,079)	人口総数 4,013	転入 26 転出 27

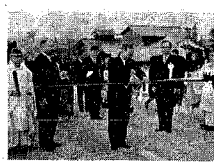


待望の月湯橋竣工

晴れやかに渡り初め

三代夫婦三組も

月湯橋の架換工事がこのほど完了し十一月二十二日県知事(代理 木島出納長) 吉海県土木部長を始め国会議員、県議員、工事関係者九〇余名の列席のもと盛大に挙行された。渡橋式は新装なった左岸(大別当)のたもとで定刻より五〇分遅れ挙行され本間村長、吉沢白根市長を先頭に続いて三代夫婦三組(棚橋仁三郎家、滝沢周太郎家、渡辺彦二家)の順で渡り初めを終り各車に分乗、竣功式会場



へ一路進行した。沿道には日の丸の小旗を振る住民歡呼の中をパレード、商工会協賛のパレード車六〇台が一層のいろを添えた。竣功式は村長の式辞で始まり朝



写真説明

- A テープカット(県知事代理木島出納長)
- B 渡り初めをする三代夫婦
- C 竣功式、祝賀会(中学体育館)

妻巻土木事務所長の工事経過報告 県知事国会議員、岡田県議の祝辞があり施工業者株式会社宮川組他四業者並びに旧月湯橋架設に功勞のあった青柳良太郎氏へ感謝状が贈呈され、祝宴は小沢代議士の首頭により乾杯し盛會裡に竣功式を終了。この橋の竣功により今後本村、白根とも接続道路の充実整備が急務となるだろう。

村民の待望久しかった月湯橋も、十一月二十二日、竣工式並びに渡橋式を開催することができましたことは、私の終生忘れることのできない喜びと思えます。

喜びのこぼれ

村長 本間國之輔

旧月湯橋は、昭和二十四年に落成してから二十二年間、白根と月湯を結びぎざりとして重要な役割を果たして来たのでありますが、二十年の歳月は、ついに腐朽その極に達したのであり、

和橋の古材を用いて、昭和二十四年に落成してから二十二年間、白根と月湯を結びぎざりとして重要な役割を果たして来たのでありますが、二十年の歳月は、ついに腐朽その極に達したのであり、

そして交通量の増加と、車両の大型化に伴い、数年前から積載電数制限の措置がとられバスの通行もできないありさまでした。昭和四十年に建設省の許可を得て県当局のお骨折りにより二億円の巨費と四年間の歳月を経てこの程完成したので

この橋を起点とする道路網の整備により、月湯の産業も文化も経済も大きく発展するものと確信するものであります。しかも本村は、新潟新産都市圏の一環として、白根市を中心とする広域行政を押し進める段階でありますと共に、益々親睦を図りながら地域開発を強力に推進する心算であります。どうか村民の皆様からも強力なバックアップをお願いいたします。

であります。しかも、でき上がった橋は電鉄軌道を超える立体交差で、幅員は75mずつの歩道のある夢のような大橋であります。

